

# 「おもてなしの心」を育む千歳ウェルカム 花ロードの取り組みについて —地域協働による10年目の道づくり—

札幌開発建設部 都市圏道路計画課 ○矢部 真希子  
千歳ウェルカム花ロード実行委員会委員長 福田 拓也  
千歳ウェルカム花ロード実行委員会事務局 佐藤 哲也

千歳ウェルカム花ロードは、北海道の玄関口新千歳空港周辺の沿道景観向上と地域の子供たちに「おもてなしの心」を育むことを目的に10年間継続している地域協働の植栽活動である。本稿では、これまでの活動の経緯を報告するとともに、今年度、子供たちに地域協働の道づくりに参加する意義を理解してもらうために行った小学校でのワークショップについて報告する。  
キーワード：住民参加、観光・景観、人材育成、まちづくり

## 1. はじめに

### (1) 支笏洞爺ニセコルートの活動

シーニックバイウエイ (Scenic Byway) とは、景観・シーン (Scene) の形容詞シーニック (Scenic) と、わき道・より道を意味するバイウエイ (Byway) を組み合わせた言葉である。地域と行政が連携し、景観や自然環境に配慮し、地域の魅力を道でつなぎながら個性的な地域、美しい環境づくりを目指す施策として、平成17年度より全国に先駆けて始まった。

札幌開発建設部の管内には2つのシーニックバイウエイルートがあるが、そのうちの一つ「支笏洞爺ニセコルート」は、支笏洞爺国立公園とニセコ積丹小樽国定公園の2つの国立・国定公園を通るルートであり、支笏湖、洞爺湖、羊蹄山、有珠山など美しい自然の見所が多く、北海道で一番目のルートとして指定された。支笏洞爺ニセコルートでは、沿道や公共空間等を地域協働で製作した冬のアイスクャンドルで飾る「シーニックナイト」や地域の埋もれた食材等を活用し新たな特産物を検討する「宝物プロジェクト」など、観光空間づくりや地域活性化のための新しい企画を次々と発案し、挑戦している。

これらの取り組みの一つとして、「ここからはじまる北海道」をテーマに、活動団体である(社)千歳青年会議所が、札幌開発建設部がとともに、千歳市を中心に国道36号沿線などで2003年から10年間取り組んでいる沿道景観づくりが「千歳ウェルカム花ロード」である。

本論文では、美しい景観づくりを通じた地域協働の取り組み事例として、この「千歳ウェルカム花ロード」の活動経緯を報告するとともに、今年度実施した地域協働の意義を伝える小学校でのワークショップについて報告

する。

## 2. 千歳ウェルカム花ロードの概要

### (1) 活動のはじまり

(社)千歳青年会議所は、2003年、北海道の空の玄関口である千歳という地域性に着目し、「北海道を訪れる人々がはじめて目にする千歳の景色で少しでも良い印象を与えたい」、また、「子供たちに、空港のある街千歳の住民として、訪れる方々への『おもてなしの心』を学んでもらいたい」という願いから新千歳空港周辺の国道36号沿道花壇への植栽を発案した。

当時、北海道開発局では、地域の住民と共に道路沿いに広がる景観、歴史、文化などの地域資源を活用して美しいツーリング環境を創造し北海道観光の魅力を高める「シーニックバイウエイ北海道」のプロジェクトを本格的にスタートした所であり、モデルルートとして指定された地域の一つが、千歳市周辺からニセコ町周辺に至る地域であった。道路管理者である札幌開発建設部は、シーニックバイウエイの趣旨に沿ったこの千歳青年会議所の提案に賛同し、沿道の安全確保、植栽、関係各機関への協力依頼、参加など積極的に協力することにした。

2003年7月23日、課外授業の一環として千歳市立桜木小学校の児童3～5年生90名が参加。当日はJ R北海道が、千歳から南千歳の植栽参加者の乗車料金を無料にするなどの協力もあり、千歳科学技術大学の学生、一般市民ボランティアら総勢約400名が参加し、第1回目の花ロード「千歳からはじまる北海道～千歳エアポート花ロード36」が開催された。植栽の前には、桜木小学校において児童へのレクチャープログラムを実施。千歳青年会議所

から、花の魅力と北海道の玄関口新千歳空港のあるまち千歳の役割など花ロードの活動目的について説明し、花の植え方の指導後、参加者全員で沿道に設置するためのプランターへの植栽を行った。(写真-1)

国道36号 J R南千歳駅周辺は、新千歳空港から札幌方面に向かう道路として、空港に降り立つ人に北海道を印象づける大切な場所であったが、それまで殺風景な光景が広がっていた。この日、南千歳駅周辺の約1 km区間の歩道に、オレンジと黄色のマリーゴールド2000株の木製プランター150台、国道沿いのフェンスに花のハンギング30個が設置され、訪れる人へのおもてなしの心を表す美しい花の道が誕生した。地域協働による千歳ウェルカム花ロード10年の歩みのスタートであった。



写真-1 第1回目花ロードの様子



図-1 第1回から9回までの花ロード植栽範囲の広がり

## (2) 第2回目以降の活動概要

翌年の2回目は、国道36号の植樹柵への植栽の他に、東京航空局千歳空港事務所に場所を提供してもらい、空港内道路の1.5kmにプランターを設置した。小学校も昨年に引き続き参加した。

3回目となる2005年には、市内小学校9校から525名の児童のほか、千歳市建設部や花の団体が参加し活動が広がり始めた。また、費用をかけずに長く美しい景観を楽しんでもらう企画として宿根草を取り入れ、夏の彩りとして芝桜、秋の彩りとしてベルギーマムを植栽した。

4回目の2006年には、前回の宿根草の企画を発展させた3つのプロジェクトを実施。植栽の前の5月に現地調査を実施、わずかに開花が確認された今年の芝桜を歩道側に植え直し、車道側には1年草を植えた。また、航空自

衛隊千歳基地が初参加し、その後、毎年協力参加となる。さらに、緑化活動を行う北海道と連携協力することとなり、花ロードが国道から道道千歳インター線までつながった。9月には、小学校3校、189名の児童が参加し、秋の彩りベルギーマムのプランターを沿道に設置し、新たな試みとしてこのベルギーマムを来春再活用するため、11月に160株を越冬場所に植え替えした。場所の提供と作業には、小学校2校、千歳市、札幌開発建設部千歳道路事務所が協力した。

2007年の第5回目以降は、植栽範囲が国道36号から、道道千歳インター線、千歳インターチェンジ入り口まで拡大したため、活動名称を、植栽エリアである国道36号を示す「千歳エアポート花ロード36」から、現在の「千歳ウェルカム花ロードver. 5」に変更した。

小学校2校ほか700名による春の植栽、180名による秋の植栽につづき、冬には第2回目の越冬プロジェクトを実施。昨年第1回目は、越冬した花の内、約3分の1が生き残り、花をつけたのはわずか16株であったため、この年は、ビニールハウスやむしろを使うなど植え方を工夫しプランター30個(60株)を野外で越冬させた。

2008年の第6回目には、洞爺湖サミット開催に伴い「ジュニア・エイトサミット2008千歳支笏湖」が千歳市で開催された。世界各国から訪れるお客様にむけて、「世界に届けおもてなしの花」をテーマに広報活動を展開。NEXCO東日本が加わり、市民、学校、企業、行政、道路管理者、約550名による5kmの花ロードでおもてなしの心を表した。この年、花苗数、植栽延長が最大になった。

2009年の第7回目を迎えるにあたり、市民や民間企業・団体等が参画しやすい組織体制を検討、同年4月に(社)千歳青年会議所、北海道開発局札幌開発建設部、北海道土木現業所、千歳市、NEXCO東日本で構成される「千歳ウェルカム花ロード実行委員会」を設立した。同時に、チラシの配布やポスター掲示など広報活動を積極的に展開しながら活動の理解促進と企業の協賛募集を働きかけた。

2009年に500名、2010年に450名が参加。千歳花俱樂部、千歳フラワーマスターの会、航空自衛隊千歳基地、市内小学校、千歳建設業協会ほか多数のボランティアが活動を継続的に支援してくれた。

第9回目の花ロード開始2ヶ月前の2011年3月、東日本大震災が発生。全国各地で様々なイベントが中止や延期という状況の中、花ロードを開催するかどうかを検討したが、このような時こそ震災からの早期復興を願い低迷した観光産業を応援する気持ちを花ロードで表そうと考え、予定通り5月に実施。参加した児童に花ロードに込めた思いを応援メッセージとして募集し活動報告として札幌開発建設部のHPに掲載した。

こうして花ロードは9年間続いた。2010年3月に新千歳空港国際線ターミナルビルがオープンするなど明るい話

題もあったが、日本経済の停滞状況を反映し、花苗を購入するための企業協賛金がなかなか集まらなかったり、2011年3月には東日本大震災が発生するなど、活動を取り巻く社会状況は必ずしも順風ではなかった。

しかし、地道に活動を積み重ねながら、千歳らしい「美しい景観づくり」と「おもてなしの心の育成」という目的を地域に伝え、協力の輪を広げていった結果、植栽延長は第1回目の1kmから3.6km(図-1)に、第1回から9回までの参加者総数は小学生約1700名を含む計4583名、植栽した花株数は約17万株となり、花ロードは地域の活動として根付いていき、ついに第10回を迎えるに至った。

### 3. 活動10年目の花ロード特別授業

#### (1) 10年目に何をするか

第9回目の花ロードの終了後に開催された実行委員会で、節目となる第10回に何をすることが議題となった。その結果、第1に、花ロードの継続に不可欠であった活動を支援してくれた小学校や団体など地域の方々への謝意を表す感謝状の贈呈、第2に、過去9回の活動成果を伝えると同時に第10回の開催協力支援を求める広報活動としての特別展示の開催、第3に、活動開始時の原点にもどり、活動の意義を地域の子供たちに伝える「花ロード特別授業」の実施を決定した。

#### (2) 特別授業の内容検討と学校との調整

協力を依頼する小学校は、第3回目から昨年までほぼ毎年継続参加し、第10回目も参加する千歳市立緑小学校と千歳市立千歳小学校とした。授業の対象児童は、花ロードに参加予定の3年生、または昨年参加した4年生を想定し内容を検討した。学校で自分達の住む地域について勉強する学年のため、地域活動である花ロードを授業の一環として関連づけることができると考えたからである。

時間は花植えとは別に、教室で1時限分の時間を頂くことにした。なぜなら、この数年間は、植栽範囲が拡大し、参加団体がエリア毎に分散して参加するようになったため、実行委員会が子どもたちに十分に活動の意義を伝える時間がほとんどなく、子供たちが花ロードを理解しているのか、「おもてなしの心」を育成することができたのか手応えを得ることは難しかったからである。

また、授業形式は、講師が一方向的に説明するのではなく、児童と対話しながら共に考え活動の意義を見いだしていくというワークショップを取り入れることにした。

このような課外授業を特別に実施するにあたり、学校への配慮として、これまで児童が受けた学習及び今後の学習に役立つような内容を取り入れるように心がけ、3、4年生の社会科教科書や副読本を参考にし、担当教員との打ち合わせを重ねて詳細な内容を決めていった。その他、シーニックバイウェイ北海道のルートの一つである南十勝夢街道が小学校で実施した「学校シーニックバイ

ウェイ」、また、千歳市が都市景観に対する意識の高揚と公共心の育成を図る目的で実施している景観学習「ジュニア景観士講座 子どもまちなみ探検隊」も参考に検討した。協力依頼の後、早々に2校から了解を得ることができ、千歳市立緑小学校では今年植栽に参加する3年生に花ロード事前授業を、千歳市立千歳小学校では4年生に花ロード事後授業を実施することになった。

#### (3) 花ロード特別事業①(事前授業)の実施について

植栽5日前の5月24日(木)、千歳市立緑小学校において植栽に参加予定の3年生2クラス合計73名に45分間3部構成の「花ロード特別授業①」を実施した(表-1)。

第1部では、実行委員長が花ロードの歴史と意義を、第1回目から昨年までの活動写真を使って説明した。

第2部では、千歳市の緑の相談員が実際に花苗を使ってカップの外し方や根のほぐ仕方などをデモンストレーションし、植栽後の水やりや除草などの大切さについて花の気持ちになって考えるという話をした。

第3部のワークショップでは、授業用に作成した緑小学校を中心とする大型の千歳の白地図をもとに、学校で学習をはじめたという地図記号カードも使いながら、講師と児童が地図上を散歩するように、地域の様子を想像しながら花ロードの位置や活動の広がりや地域とのつながりを考えた。また、一目で理解できるようにイラストを多用したワークシート(図-2)を使って、「花ロードを見た人や動物、鳥、虫はどう思うだろうか」という視点から、花が植えられた沿道風景や花ロードがもたらす地域のつながりやひろがりについて、児童がそれぞれ想像した考えを自由に発表し相互に意見を共有する過程を経て、活動の意義を見いだしていった。

表-1 花ロード特別授業①の概要

<b>【学習目標】</b> 花ロードへの参加をきっかけにその意義を理解し、地域の人々とのつながりをもちながら郷土の美化とその活動の広がりを考える。
<b>【授業目標】</b> ・千歳市の地図上で、花ロード全体、自分の学校、自分たちが花を植える位置を理解する。 ・花を植える方法と手順を理解する。 ・花ロードの意義を理解し、つなぎ広める方法を考える。
<b>【授業展開(45分)】</b> ①「シーニックバイウェイ、みんなで花ロードに挑戦」～10年間の花ロードの歴史と意義について ②「花の声を聞いて花を育てよう」 ③ワークショップ「つなぎ、広める花ロード」
<b>【教材、教具、資料】</b> ①パワーポイント ②花苗 ③(掲示用)白地図、地図記号カード、花ロードシール、(児童配布用)学習シート



図-2 花ロードワークシート 表・裏



写真-2 花ロード授業の様子

(4) 事前授業の成果

表-2 事前授業でのキーワード

分類	大分類	細分類	キーワード(又は、これに類する言葉や表現)
A	花ロードの意義と概要の理解	①美しい景観づくり	花を植えると町や道がきれいになる
		②おもてなしの心	みんなが喜ぶ、うれしい、楽しい、良い気持ち、元気になる、笑顔になる、花で心と心をつなげる(心がつながる)、自分も楽しくなる
		③花ロードの歴史や概要	10年間続いている、色々な場所で植えている、たくさん植えている
B	花ロードへの参加、期待(つながり、ひろがり)	④植栽への参加意欲	花を植えたい、植えるのが楽しみ、参加できなくて残念
		⑤花ロードの継続・発展への期待	花を増やす、たくさん植える、ずっと続けてほしい、植える場所を広げる、来年も参加したい
		⑥その他(地域人々との協力、花ロードについて伝えたいなど)	みんなで参加する、協力する、みんな(家族、地域、日本、世界の人)に見てもらいたい、教えたい、知ってもらいたい、花ロードが世界につながっている

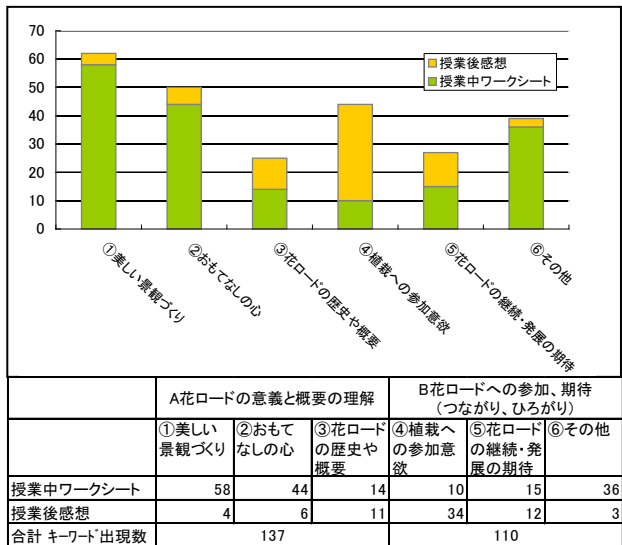


図-3 特別授業①の成果 (キーワードの抽出数)

\* 授業中ワークシート 73名中61名分 \* 授業後感想 73名中63名分

授業の成果については、授業で児童が記入したワーク

シートの内容と授業後に講師へあてて感想が書かれた手紙をもとにキーワードや表現を表-2のカテゴリーに基づき分類し、子供たちが何に関心をもったか、授業の内容が伝わったかについてその効果と傾向を考察した。

授業と植栽体験を総合して活動を理解するという前提で授業を実施したが、当日は雨のため残念ながら児童の植栽参加は中止になった。しかし、図-3のキーワードの抽出数から、「A花ロード活動の意義と概要の理解(ワークシート、感想:137)」から景観づくりやおもてなしの心について、授業で十分に理解し、「B花ロードへの参加、期待(ワークシート、感想:110)」から参加意欲や継続・期待も高まったことがわかった。

参考までに成果のもととしたワークシートの質問と回答、授業後に講師へあてて書かれた手紙の一部を抜粋して紹介する(表-3)。

表-3 特別授業①の成果

ワークシートの質問と回答と講師宛てに書かれた手紙から	
■質問「みんなで植えた花いっぱいの花ロード。花を植えると、どんなすてきなことがおこるでしょう」	千歳がもっともときれになって、だれもが好きな町になる ・みんながあつまってみんながうれしい気持ちになる ・いろんな人が「またくるね」とか「また来たい!」とか言われるとうれしい ・楽しくなって心が優しくなる ・観光客や世界中の人たちが笑顔になってほしい
■質問「花ロードを広めるには、どうしたらよいとおもいますか?」	・花をいっばいうえて、いろんな人に知ってもらう ・地域の人とかみんなで花うえしたら花ロードが広まってどんどん花ロードができる ・ずっとつづけてみる ・花で人の心と心をつなぐ ・花ロードの写真をとって友達に送る
■質問「授業でわかったこと、思ったこと、感じたこと」	・お花は心をつなげたり、元気をくれたりすることを知りました ・お花はまちをきれいにしてくれることがわかりました、花うえが大切ということがわかりました ・花ロードはせかいまでつながっているんだなと思いました ・花の植え方がよくわかった ・花をうえるのが楽しみです、花はみんなにとって大事なものなんだと思いました ・花ロードは今年で10年目、今年はとってきれいな花をうえて、みんなの心をきれいにしてあげたい ・花をうえるとうれしい気持ちになったり、道がきれいになることがわかりました
■講師へ宛てに書かれた手紙の感想	・(雨で)花ロードに行けなくてざんねんです。こんどできたらやりたいです。そして、花ロードをひろげてみんなをいきもちにしたいです。これからも花ロードがひろまればいいなあとと思います。 ・花ロードがあんなにあるなんてすごかったです。できれば花ロードがやりたかったです。 ・雨が降って行けなくてとてもよかったです。でも行く前いろんなことを教えてくれて花を大切にしようと思いました。 ・花はみんなを楽しませてくれたり、花はぼくにとってキレイな心です。 ・私はお花が大好きです。道路にお花がさいたらすごい美しいです。

工夫を施した教材は、児童の理解を助け関心を高める



ことに効果的であった。講師が活動の意味を教えるのではなく対話を通して児童各自の自由な考えを導くことで、能動的な参加や発表を促すことができた。景観やおもてなしに限らず、地域の協力や国内や世界とのつながり、花ロードに取り組むことで感じる自分自身の喜びなど、予想以上に深い理解が感じられる意見も発表された。

### (5) 花ロード特別授業②（事後授業）の実施について

千歳市立千歳小学校では、植栽から約1ヶ月後の7月11日（水）、昨年花ロードに参加した4年生2クラス合計60名を対象に、1時間で2部構成の「花ロード特別授業②」を実施した（表-4）。

授業の前半は、花ロードの発案者である講師から花ロードの活動の歴史と支笏湖周辺の美しい自然を写真で紹介した。千歳の魅力を伝え大勢の人に訪れてもらうことで地域が元気になること、訪れる人をおもてなしする花ロードの意義について自身の体験を交えて紹介した。後半のワークショップでは、講師が千歳をはじめ訪れた観光客に扮し児童に地域の魅力を尋ねるという設定で児童各自の「千歳の魅力ベスト5」を発表し全員で千歳の魅力を共有しそれを伝える方法について考えた。

表-4 花ロード特別授業②の概要

<b>【学習目標】</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>花ロードを出発点として千歳の見所や特色などを発表し、自分の住む郷土のよさ（魅力）を再確認する。</li> <li>千歳の魅力をPRするための課題を見つけ、調べまわめて、人に伝えるためにどうしたらよいかを考える。</li> </ul>	
<b>【授業目標】</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>花ロードの歴史と取り組みの意義を理解する。</li> <li>千歳の見所や特色を再確認しPRするテーマを見つけ、その方法を考える。</li> </ul>	
<b>【授業展開（60分）】</b>	
①「みんなでつないだ千歳ウェルカム花ロード10年の歴史」	
②ワークショップ「ウェルカム千歳」：花ロードからはじまる千歳のまちの魅力（宝）を探し伝えよう	
<b>【教材、教具、資料】</b>	
①パワーポイント②（掲示用）白地図、地図記号カードほか（児童配布用）学習シート	



写真-3 花ロード授業の様子

### (6) 授業の成果

表-5 事後授業でのキーワード

分類	大分類	細分類	キーワード(又は、これに類する言葉や表現)
A	花ロードの意義と概要の理解	①美しい景観づくり	花を植えるのと町や道がきれいなる
		②おもてなしの心	みんなが喜ぶ、うれしい、楽しい、良い気持ち、元気になる、笑顔になる、花で心と心をつなげる(心がつながる)、自分も楽しくなる
		③花ロードの歴史や概要	10年間続いている、色々な場所で植えている、たくさん植えている
B	花ロードへの参加、期待(つながり、ひろがり)	④植栽への参加意欲	花を植えたい、植えるのが楽しみ、参加できなくて残念
		⑤花ロードの継続・発展への期待	花を増やす、たくさん植える、ずっと続けてほしい、植える場所を広げる、来年も参加したい
C	郷土への理解と関心	⑥郷土への愛着心、郷土の魅力を伝えたい	郷土の魅力を発見した(理解した)、郷土について知りたくなった、郷土について教えたい(伝えたい)、たくさんの人に郷土を訪れて欲しい
D	その他	授業が楽しかった、教材が興味深かった、花が好きになった、花を大切におもようようになったなど	花の大きさがわかった(大切にしたい)、花が好きになった、花の植え方がわかった、説明がわかりやすかった、おもしろかった、勉強になった、

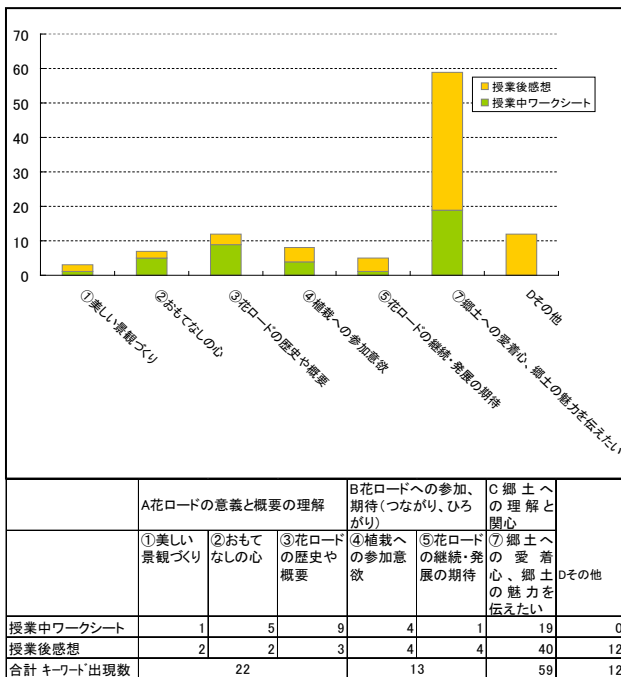


図-4 特別授業②の成果（キーワードの抽出数）

\* 授業中ワークシート60名中28名分 \* 授業後感想 60名中53名分

授業の成果については、事前授業と同様に、授業で児童が記入したワークシートの内容と授業後に講師へあてて感想が書かれた手紙をもとに、キーワード等を表-5の категорияに基づき分類し、子供たちが何に関心をもったか、授業の内容が伝わったかについてその効果と傾向を考察した。なお、事後授業については、授業内容にあわせ郷土愛に関する項目をキーワードの分類「C」として追加している。

図-4のキーワード抽出数をみると、「A花ロード活動の意義や概要（ワークシート、感想：22）」、「B花ロードへの参加、期待（ワークシート、感想：13）」、「C郷土への

愛着心、郷土の魅力を伝えたい（ワークシート、感想：59）」から、特に、Cの郷土愛に関する記載が多いのがわかる。

花ロードを体験した経験のある児童が、授業によって花ロードの活動単体への理解と関心から郷土への関心を高め、愛着心を醸成し、地域活性化につながる地域の外への魅力発信に興味を持つことができたと推察される。

この授業は花ロード後の発展学習として、花ロードをきっかけに郷土に関心を持ち、自ら郷土の魅力を発信することを考えることで、地域を支え元気にする応援者の一人に育ってもらいたいという願いが込められていた。

児童が花ロードをきっかけに人と人のつながりや地域と世界のつながりを考え、また、地域の案内人としての魅力を伝える過程を通して、郷土についてもっと知りたいという意欲や地域の一員としての自覚を芽生えさせることができた。参考までに成果のもととしたワークシートの質問と回答、授業後に講師へあてて書かれた手紙の一部を抜粋して紹介する（表-6）。

表-6 特別授業②の成果

（ワークシートの意見と講師宛てに書かれた手紙から）

<p><b>■ワークシートの意見</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・千歳ウェルカム花ロードが10回を迎えたことがすごい</li> <li>・花ロードは見る人が喜ぶように毎年植えられていることを知ってびっくりした。</li> <li>・千歳のことを教えたい気持ちになった</li> <li>・これからも千歳ウェルカム花ロードを続けて千歳を日本一観光客が多い地区にしたい</li> <li>・ウェルカムのように、また植える機会があれば色々な人たちが「また来たい」という気持ちにさせたいと思いました</li> <li>・花を植えるだけで、人は「また来たいなあ」とか、心がはなやかになったり、花は文字で表さなくても人を元気にしてくれる事がわかったので、これからも花ロードに参加して人を元気にさせたい</li> <li>・話を聞いて、もっと北海道や千歳が好きになったので、もっともっと色々なことを調べたい</li> <li>・（花ロードに）今年は参加できなかったけれど来年は参加しようと思う、ぜんぜん千歳市のことを知らない、これからがんばって千歳市のことをいっぱい知ろうと思う</li> <li>・花ロードで、いろいろな人がまた来たいと思われるように、これからも花を植えるときは気持ちをこめて植えたい</li> </ul>
<p><b>■講師へ宛てに書かれた手紙の感想</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・花ロードは、人をよろこそと言っているんだなと感動しました。</li> <li>・花ロードが今年10年目、私たち（の年）と同じです。花ロードはとても大事な役目をしているんですね。</li> <li>・花ロードは一回しか参加できなかったけど、みんなと一緒よに花を植えられてとても良かったです。またやりたいです。</li> <li>千歳にはいっぱいいい所があるので、これからも千歳に来て、千歳のことを知ってください。</li> <li>わたしは転校生で千歳市のことをぜんぜんわからなかったけれど、みんなと千歳市のことが良くわかってよかったです。千歳市のことどんどん好きになりました。</li> <li>（千歳の魅力を集めた）パンフレットづくり一生けんめいとりくみます。</li> <li>千歳市にはきれいな湖、美しい自然などすてきな場所があります。親切な人もたくさんいます。</li> </ul>



写真-4 千歳ウェルカム花ロードの様子

#### 4. おわりに

第10回目の千歳ウェルカム花ロードは平成24年5月29日に開催された。当日は雨天のため小学校児童135名の参加が中止になったが、地域の花植え団体、企業ボランティア、航空自衛隊千歳基地、一般参加者、実行委員会ほか総勢415名が参加した。新千歳空港構内道路にもプランターが設置され、第2回目以降途切れていた空港構内にも花ロードが再びつながり、新千歳空港周辺沿道合計5kmに27,000株の花ロードが創出された(写真-4)。

10年目の特別行事では、小学校での特別授業の他、全国各地から訪れる人が通行する札幌駅前通地下歩行空間で「活動10年の歴史をふりかえる特別展示」（5月18日～25日）を実施し広報活動を展開、さらに、長い間を花ロードの活動を支援して頂いた学校、団体、企業への感謝状贈呈（6月13日）を行った。

千歳ウェルカム花ロードが10年間にわたり活動を継続できた一番の理由は、地域の小学校、花植えボランティア団体、航空自衛隊千歳基地など、地域に住む方々の協力である。この数年は、小学校や地域のボランティアなど協力団体の参加が定着し、企画段階の植栽計画や除草にも協力参加し、活動に欠かせない存在となっている。

また、実行委員会という組織を設立することによって、発案者である青年会議所だけでなく、植栽活動に賛同した実行委員会の各行政機関等が、当事者として企画の段階から関わり協働で、活動周知や参加者募集の広報、参加関係団体との調整、当日の植栽参加や安全確保に至るまで、活動全般に取り組んでいることも、活動を継続できた大きな理由の一つと考えられる。

活動10年目の花ロード特別授業では、地域の将来を担う子供たちにあらためて活動の意義を伝えることで、活動参加への意欲や地域への関心を高めることができ、今後の活動にむけて大きな手応えを感じることができた。

今後は景観づくりとともに、特別授業のような活動の意義をしっかりと伝える機会を多く作る事が重要と考える。一人でも多くの方から理解と協力を得て地域連携による協働の輪を広げ、美しい北海道の第一印象としての「千歳ウェルカム花ロード」を継続していきたい。